北朝鮮の食糧生産

1920年代から1950年代の統計分析

木村光彦

(青山学院大学)

はじめに

本稿は地域比較アプローチにより、日本統治期から1950年代の北朝鮮の農業生産を考察する。具体的には、朝鮮を大きく北朝鮮と南朝鮮に分け、さらに前者を北鮮（咸鏡南・北道）と西鮮（平安南・北道と黄海道）、後者を中鮮（京畿道、江原道と忠清南・北道）と南鮮（慶尚南・北道と全羅南・北道）に分ける。この4地域分類は日本統治期に使われたもので、13道と南北2朝鮮の中間の分類として便利である⁽¹⁾。

朝鮮王朝時代、北朝鮮は畑作地帯であった。日韓併合当時、そこでもっとも普及していたのは粟作で、これに次ぐのは北鮮では大麦、稗、大豆、西鮮では米、大豆であった。これは、米作が盛んであった南朝鮮と鋭い対照をなす。その後、北朝鮮農業はいかに変貌したか。これまで、日本統治下朝鮮の農業生産についてはおおくの研究がある。しかしその大部分は朝鮮全体を対象としたもので、北朝鮮に焦点を当てた研究はすくない。戦前、東畑・大川（1935、1939）は、併合後の朝鮮の米作発展を数量的に分析し、発展の中心が北朝鮮であった事実を指摘した。本稿ではこの点をふくめ、統計データを詳細に調べる。

朝鮮の1910年代の統計は一般に信頼性がひくい。農業や人口の統計には大幅な過小評価がある。1918年、土地調査が完了し、農業統計の精度が格段に向上した。1936年には、坪刈り法が導入され、米生産統計の精度がさらに高まった。麦については、坪刈り法は1942年秋にはじめて計画された⁽²⁾。こうした点を考慮し、本稿では1910年代を検討対象から除く。1936年前後の米生産統

計の不連続は、現段階では地域ごとに調整する方法をみいだせないで、そのままとする。戦後については、統計の信頼性自体が重要な検討課題である。

以下、第1節では主要な食糧作物、米、大麦、粟、ジャガイモ、大豆について戦前の変化を考察する。第2節では戦後の北朝鮮政府の統計を検証する。第3節はまとめとする。

1. 戦前

(1) 米

北朝鮮の米生産については1920-30年代、次の変化があった。第1に作付面積がおおきく増えた：1918/20—38/40年間、北鮮では4.8万町歩から8.5万町歩、西鮮では27万町歩から33万町歩（表1）。第2に反収（土地生産性）が伸びた。これにより、生産量が作付面積以上に増加した。第3に生産増が人口増を上回り、1人あたり生産量が増加した。とくに北鮮や、西鮮の平安北道では倍増もしくはそれ以上の増加を記録した。こうした点は南朝鮮と対照的であった。南では作付面積が減少気味であった。反収は増加したが小幅にすぎず、30年代には北朝鮮に追い越されるほどであった。その結果、生産の増加率は北朝鮮にくらべ低かった。これを反映し、1人あたり生産における対北優位性が縮小した。

上記、北朝鮮の米作成長を促進した重要な技術要因は品種改良であった。西鮮と咸鏡南道では陸羽132号、咸鏡北道では小田代および早生大野という品種がもっとも普及した（表2）。これらは日本の東北地方から導入された寒冷地むけの品種

表1 米生産統計

	年	北鮮		西鮮			中鮮	南鮮	計
		咸鏡南道	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道			
A. 作付面積、3年平均(千町歩)	1918/20	41	7	125	68	73	508	725	1,547
	1928/30	51	15	128	77	85	517	731	1,604
	1938/40	67	18	148	88	96	469	626	1,512
	1941/43	61	18	140	76	90	457	618	1,459
B. 生産量、3年平均(千石)	1918/20	357	50	920	474	486	4,383	7,634	14,303
	1928/30	491	148	1,072	778	963	4,431	7,580	15,465
	1938/40	977	221	2,074	1,153	1,611	5,545	8,427	20,008
	1941/43	688	127	1,879	906	1,374	6,163	8,627	19,764
C. 反収(石)	1918/20	0.86	0.71	0.74	0.70	0.67	0.86	1.05	0.92
	1928/30	0.97	1.00	0.84	1.01	1.13	0.86	1.04	0.96
	1938/40	1.46	1.20	1.40	1.30	1.68	1.18	1.35	1.32
	1941/43	1.13	0.71	1.34	1.19	1.53	1.35	1.40	1.35
D. 1人当り生産量(石)	1918/20	0.29	0.10	0.71	0.42	0.39	0.91	1.11	0.83
	1928/30	0.35	0.22	0.76	0.61	0.67	0.82	0.99	0.80
	1938/40	0.59	0.24	1.20	0.75	0.97	0.84	0.97	0.88
	1941/43	0.33	0.10	0.96	0.49	0.72	0.80	1.01	0.75

(注) 1人当り生産量は、表記年の平均生産量を中間年の人口数(たとえば1918/20年のばあい、1919年の人口数)で割った値。
 (出所) 朝鮮総督府(1922-42)、朝鮮銀行調査部(1948: 42-43)。

表2 稲品種別作付面積：1940年 (千町歩)

品種	北鮮		西鮮		
	咸鏡南道	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道
陸羽132号	56	—	10	34	78
小田代	—	9	—	—	—
早生大野	4	5	—	—	—
その他	7	5	136	49	17
計	67	19	146	83	95

(注) 黄海道でもっとも多かった品種は、赤神力(5.7万町歩)、ついで中生銀坊主(3.9万町歩)であった。
 (出所) 朝鮮総督府(1942)。

であった(陸羽132号は秋田、小田代は青森、早生大野は山形から)(農林省1976: 225, 230)。そのほか肥料増投、灌漑整備の貢献も大であったが、ここではこれ以上論じない。

1938/40—41/43年間、作付面積、反収ともに減少し、1人あたり生産量も減少した。これは戦時期に、労働力、資材の深刻な不足が生じたためである。1940年代の動向については項を改めて論じる。

(2) その他—大麦・粟・ジャガイモ・大豆

大麦の生産は南朝鮮に集中し、この傾向は1920年代から40年代まで不変であった(表3)。逆に、粟は一貫して北朝鮮中心であった(表4)。それらは米作とは対照的に、ほとんど発展しなかった。30年代にはむしろ衰退傾向を示した。ジャガイモの主産地は北鮮とくに咸鏡南道であった(表5)。その生産は20、30年代、やや増加した。大豆は南北各地方で万遍なく栽培された(表6)。北朝鮮の大豆生産は20年代には伸びたが、のち減少傾向に陥った。このように総じて、畑作食糧作物は米作のように発展しなかった。

(3) 総合

(1)、(2)に大麦以外の各種麦をくわえ、各作物の生産データをトン単位で表示する(表7)。同表で興味ぶかい点のひとつは、1930年代後半に西鮮で、米の生産量が雑穀のそれを上回ったことである。すなわち米作拡大の結果、西鮮は米作中心の地域になった。これにたいし、北鮮ではイモ類—大半はジャガイモ—の生産量が雑穀のそれを凌駕するようになった。穀物とイモ類を合わせ

表3 大麦生産統計

	年	北鮮		西鮮			中鮮	南鮮	計
		咸鏡南道	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道			
A. 作付面積、3年平均(千町歩)	1918/20	37	44	14	17	10	216	392	730
	1928/30	35	45	14	17	6	248	505	871
	1938/40	42	43	8	17	6	297	413	826
	1941/43	36	34	4	15	4	273	356	723
B. 生産量、3年平均(千石)	1918/20	233	242	95	151	65	1,879	4,131	6,797
	1928/30	196	207	87	141	50	1,702	4,735	7,117
	1938/40	235	220	71	136	25	2,705	3,900	7,290
	1941/43	115	143	23	70	14	2,112	2,850	5,327
C. 反収(石)	1918/20	0.62	0.56	0.67	0.89	0.67	0.87	1.05	0.93
	1928/30	0.56	0.46	0.60	0.83	0.79	0.69	0.94	0.82
	1938/40	0.56	0.51	0.83	0.78	0.44	1.10	0.94	0.88
	1941/43	0.32	0.42	0.55	0.48	0.37	0.77	0.80	0.74
D. 1人当り生産量(石)	1918/20	0.19	0.46	0.07	0.13	0.05	0.39	0.60	0.40
	1928/30	0.14	0.31	0.06	0.11	0.04	0.32	0.61	0.37
	1938/40	0.14	0.24	0.04	0.09	0.02	0.41	0.45	0.32
	1941/43	0.06	0.12	0.01	0.04	0.01	0.27	0.34	0.20

(出所) 朝鮮総督府(1922-42)、朝鮮銀行調査部(1948: 42)。

表4 粟生産統計

	年	北鮮		西鮮			中鮮	南鮮	計
		咸鏡南道	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道			
A. 作付面積、3年平均(千町歩)	1918/20	74	65	182	126	112	128	83	771
	1928/30	85	69	178	125	119	129	94	797
	1938/40	75	63	162	120	108	122	115	765
	1941/43	67	53	143	112	85	123	99	689
B. 生産量、3年平均(千石)	1918/20	485	390	1,279	951	718	719	629	5,172
	1928/30	570	446	1,171	1,022	717	717	707	5,350
	1938/40	407	370	1,100	907	652	511	896	4,842
	1941/43	356	246	907	681	432	472	474	3,569
C. 反収(石)	1918/20	0.65	0.60	0.70	0.75	0.64	0.56	0.76	0.67
	1928/30	0.67	0.65	0.66	0.82	0.60	0.75	0.75	0.67
	1938/40	0.54	0.59	0.68	0.76	0.60	0.42	0.78	0.63
	1941/43	0.54	0.46	0.64	0.61	0.51	0.38	0.48	0.52
D. 1人当り生産量(石)	1918/20	0.39	0.74	0.98	0.84	0.58	0.15	0.01	0.30
	1928/30	0.41	0.66	0.83	0.80	0.50	0.13	0.09	0.28
	1938/40	0.24	0.40	0.64	0.59	0.39	0.08	0.10	0.21
	1941/43	0.17	0.20	0.46	0.37	0.23	0.06	0.06	0.14

(出所) 朝鮮総督府(1922-42)、朝鮮銀行調査部(1948: 48)。

た食糧作物全体の生産量は北鮮、西鮮の両地域で増大した。最高値を記録したのは1937年で、それは1920年に比し、それぞれ33%、31%の伸びであった。北朝鮮の生産が朝鮮全体に占める割合

は、南朝鮮で米が大凶作であった1939年を除くと、36-40%の間であった。1人あたりでは、北鮮と西鮮の値はほぼ一貫して中鮮、南鮮のそれより高かった。とくに北鮮の優位性が目立った。そ

表5 ジャガイモ生産統計

	年	北鮮		西鮮			中鮮	南鮮	計
		咸鏡南道	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道			
A. 作付面積、3年平均(千町歩)	1918/20	34	8	1	4	5	13	4	70
	1928/30	41	10	2	6	7	17	5	87
	1938/40	58	14	3	6	7	29	8	126
B. 生産量、3年平均(百万貫)	1918/20	55	14	2	5	11	24	8	119
	1928/30	58	18	3	7	12	30	7	135
	1938/40	73	21	4	10	11	52	11	176
C. 反収(貫)	1918/20	163	174	165	127	197	182	189	170
	1928/30	143	176	167	130	175	175	133	155
	1938/40	126	149	149	170	151	181	133	140
D. 1人当り生産量(貫)	1918/20	44	27	2	4	8	5	1	7
	1928/30	42	26	2	6	8	6	1	7
	1938/40	44	22	2	7	7	7	1	8

(注) 1941/43年のデータは入手不能。

(出所) 朝鮮総督府(1922-42)。

表6 大豆生産統計

	年	北鮮		西鮮			中鮮	南鮮	計
		咸鏡南道	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道			
A. 作付面積、3年平均(千町歩)	1918/20	57	49	79	50	64	226	234	758
	1928/30	61	63	93	54	73	236	184	796
	1938/40	71	68	101	53	80	209	141	723
	1941/43	64	57	82	43	77	159	122	600
B. 生産量、3年平均(千石)	1918/20	284	215	435	274	324	1,267	1,513	4,313
	1928/30	332	367	491	323	382	1,174	1,028	4,097
	1938/40	288	319	481	258	370	845	595	3,156
	1941/43	200	158	359	166	306	655	455	2,298
C. 反収(石)	1918/20	0.50	0.44	0.55	0.55	0.51	0.56	0.65	0.57
	1928/30	0.54	0.59	0.53	0.60	0.52	0.50	0.56	0.52
	1938/40	0.41	0.47	0.48	0.49	0.46	0.40	0.42	0.44
	1941/43	0.31	0.28	0.43	0.39	0.40	0.41	0.37	0.40
D. 1人当り生産量(石)	1918/20	0.23	0.41	0.33	0.24	0.26	0.26	0.22	0.33
	1928/30	0.24	0.54	0.35	0.25	0.27	0.22	0.13	0.21
	1938/40	0.17	0.34	0.28	0.17	0.22	0.13	0.07	0.14
	1941/43	0.10	0.13	0.18	0.09	0.16	0.09	0.05	0.09

(出所) 朝鮮総督府(1922-42)、朝鮮銀行調査部(1948: 48)。

これは主として、ジャガイモの生産が多かったことによる。時系列では北鮮で低下傾向が認められる。食糧生産は増大したが、それ以上に人口が増大したからである。他の地域では明確なトレンドはみいだせない。

(4) 1940年代

1941年の日米開戦以降、食糧生産データはしだいに機密扱いとなった。戦後、いくつかの資料から同データを得られるようになったが、全面的ではない。表8は2種類のデータを示す。データIは朝鮮銀行が1948年に発行した年報による。

表7 トン表示の食糧生産量、1920-40年

(千トン)

	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940
●米																					
北鮮	68	60	68	73	68	80	83	95	72	99	117	83	101	122	101	132	139	193	159	221	159
西鮮	334	278	294	283	295	322	309	396	351	409	506	447	477	511	492	568	606	823	747	739	691
中鮮	739	681	680	668	596	656	652	796	559	637	798	689	730	831	782	812	888	1,267	1,149	549	797
南鮮	1,092	1,130	1,210	1,253	1,024	1,158	1,250	1,307	1,044	911	1,456	1,162	1,144	1,265	1,132	1,171	1,278	1,736	1,567	644	1,582
北朝鮮	401	339	362	355	363	402	393	491	423	508	623	530	578	633	593	700	745	1,016	905	960	850
南朝鮮	1,831	1,810	1,890	1,921	1,620	1,814	1,902	2,104	1,604	1,548	2,254	1,851	1,874	2,095	1,914	1,983	2,167	3,003	2,715	1,193	2,379
●麦・雑穀																					
北鮮	408	422	382	398	365	385	398	386	331	376	388	345	362	307	221	292	343	380	316	229	241
西鮮	873	845	730	675	709	676	645	641	697	692	750	672	749	743	596	721	744	807	761	713	685
中鮮	501	489	445	443	452	470	456	450	395	436	466	464	496	467	478	524	414	709	547	609	486
南鮮	817	881	802	690	833	880	813	800	841	846	870	867	944	882	955	1,064	906	1,201	958	1,172	1,075
北朝鮮	1,280	1,267	1,112	1,073	1,074	1,061	1,043	1,027	1,029	1,069	1,138	1,017	1,111	1,049	817	1,014	1,088	1,187	1,076	943	927
南朝鮮	1,318	1,369	1,247	1,132	1,285	1,350	1,269	1,250	1,236	1,282	1,336	1,330	1,441	1,348	1,433	1,588	1,320	1,911	1,506	1,781	1,561
●イモ類																					
北鮮	295	292	299	215	196	212	242	245	210	327	317	221	425	306	193	343	451	477	360	349	349
西鮮	92	93	83	84	82	84	81	84	91	99	107	96	119	120	121	135	161	178	184	174	185
中鮮	101	105	99	91	92	96	112	109	121	119	131	136	160	159	153	174	178	215	227	170	234
南鮮	111	110	108	107	105	120	75	110	105	100	119	122	119	139	126	161	140	183	234	200	229
北朝鮮	387	385	382	299	278	296	324	330	301	426	425	318	545	426	313	479	611	655	544	522	534
南朝鮮	212	215	206	198	197	216	187	219	226	219	249	258	279	298	279	336	318	398	461	370	463
●豆類																					
北鮮	100	99	102	112	80	113	107	119	96	109	115	82	107	118	82	118	114	109	103	66	102
西鮮	280	252	220	233	178	251	233	247	219	232	243	239	236	249	222	250	223	255	244	170	237
中鮮	228	220	203	208	150	203	190	217	171	183	190	188	198	206	188	199	172	201	180	77	127
南鮮	206	206	208	208	171	187	194	199	134	129	183	169	176	170	149	157	111	139	112	66	82
北朝鮮	380	351	322	346	258	364	340	366	315	340	358	321	343	366	304	369	336	363	348	236	339
南朝鮮	433	426	411	416	321	390	384	416	304	311	374	357	375	375	337	356	284	340	292	143	209
●合計																					
北鮮	870	873	852	797	709	791	831	846	710	910	938	732	995	852	597	887	1,047	1,159	938	866	851
西鮮	1,578	1,468	1,326	1,275	1,264	1,332	1,269	1,368	1,358	1,432	1,606	1,454	1,581	1,623	1,430	1,674	1,734	2,063	1,935	1,795	1,799
中鮮	1,568	1,495	1,427	1,409	1,289	1,425	1,410	1,572	1,246	1,374	1,585	1,477	1,585	1,662	1,601	1,710	1,652	2,393	2,103	1,404	1,645
南鮮	2,227	2,326	2,327	2,257	2,133	2,345	2,332	2,416	2,124	1,986	2,628	2,319	2,384	2,455	2,363	2,553	2,437	3,259	2,871	2,082	2,967
北朝鮮	2,448	2,341	2,179	2,072	1,973	2,123	2,100	2,214	2,068	2,343	2,544	2,186	2,576	2,475	2,027	2,561	2,780	3,222	2,873	2,661	2,650
南朝鮮	3,795	3,820	3,754	3,667	3,423	3,770	3,742	3,988	3,370	3,360	4,213	3,796	3,969	4,117	3,964	4,263	4,089	5,652	4,974	3,487	4,612
●人口																					
北鮮	1,753	1,794	1,841	1,852	1,862	1,858	1,981	2,020	2,040	2,077	2,201	2,199	2,269	2,286	2,337	2,395	2,416	2,477	2,522	2,603	2,898
西鮮	3,568	3,637	3,709	3,782	3,826	4,046	4,057	4,061	4,073	4,111	4,287	4,288	4,353	4,418	4,499	4,647	4,695	4,780	4,852	4,916	5,087
中鮮	4,885	4,915	4,970	5,023	5,052	5,326	5,332	5,314	5,340	5,402	5,680	5,685	5,799	5,881	5,990	6,243	6,311	6,416	6,519	6,607	6,972
南鮮	7,083	7,108	7,107	7,227	7,329	7,686	7,734	7,742	7,735	8,090	8,179	8,204	8,300	8,607	8,625	8,683	8,740	8,675	8,752	8,752	8,752
北朝鮮	5,321	5,431	5,550	5,634	5,688	5,904	6,038	6,081	6,113	6,188	6,488	6,487	6,622	6,704	6,836	7,042	7,111	7,257	7,374	7,519	7,858
南朝鮮	11,968	12,023	12,077	12,250	12,381	13,012	13,066	13,056	13,075	13,144	13,770	13,775	13,978	14,085	14,290	14,850	14,936	15,099	15,259	15,282	15,724
●1人当り合計 トン																					
北鮮	0.50	0.49	0.46	0.43	0.38	0.43	0.42	0.42	0.35	0.44	0.43	0.33	0.44	0.37	0.26	0.37	0.43	0.47	0.37	0.33	0.29
西鮮	0.44	0.40	0.36	0.34	0.33	0.33	0.31	0.34	0.33	0.35	0.37	0.34	0.36	0.37	0.32	0.36	0.37	0.43	0.40	0.37	0.35
中鮮	0.32	0.30	0.29	0.28	0.26	0.27	0.26	0.30	0.23	0.25	0.28	0.26	0.27	0.28	0.27	0.27	0.26	0.37	0.32	0.21	0.24
南鮮	0.31	0.33	0.33	0.31	0.29	0.31	0.30	0.31	0.27	0.26	0.32	0.29	0.29	0.30	0.28	0.30	0.28	0.38	0.33	0.24	0.34
北朝鮮	0.46	0.43	0.39	0.37	0.35	0.36	0.35	0.36	0.34	0.38	0.39	0.34	0.39	0.37	0.30	0.36	0.39	0.44	0.39	0.35	0.33
南朝鮮	0.32	0.32	0.31	0.30	0.28	0.29	0.29	0.31	0.26	0.26	0.31	0.28	0.28	0.29	0.28	0.29	0.27	0.37	0.33	0.23	0.29
●1人当り米																					
北鮮	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	0.04	0.06	0.06	0.08	0.06	0.09	0.05	0.05
西鮮	0.09	0.08	0.08	0.07	0.08	0.08	0.08	0.10	0.09	0.10	0.12	0.10	0.11	0.12	0.11	0.12	0.13	0.17	0.15	0.15	0.14
中鮮	0.15	0.14	0.14	0.13	0.12	0.12	0.12	0.15	0.10	0.12	0.14	0.12	0.13	0.14	0.13	0.13	0.14	0.20	0.18	0.08	0.11
南鮮	0.15	0.16	0.17	0.17	0.14	0.15	0.16	0.17	0.14	0.12	0.18	0.14	0.14	0.15	0.14	0.15	0.14	0.20	0.18	0.07	0.18
北朝鮮	0.08	0.06	0.07	0.06	0.06	0.07	0.07	0.08	0.07	0.08	0.10	0.08	0.09	0.09	0.09	0.10	0.10	0.14	0.12	0.13	0.11
南朝鮮	0.15	0.15	0.16	0.16	0.13	0.14	0.15	0.16	0.12	0.12	0.16	0.13	0.13	0.15	0.13	0.13	0.15	0.20	0.18	0.08	0.15
●1人当り麦・雑穀																					
北鮮	0.23	0.24	0.21	0.21	0.20	0.21	0.20	0.19	0.16	0.18	0.18	0.16	0.16	0.13	0.09	0.12	0.14	0.15	0.13	0.09	0.08
西鮮	0.24	0.23	0.20	0.18	0.19	0.17	0.16	0.16	0.17	0.17	0.17	0.16	0.17	0.17	0.13	0.16	0.16	0.17	0.16	0.15	0.13
中鮮	0.10	0.10	0.09	0.09	0.09	0.09	0.08	0.07	0.08	0.08	0.08	0.08	0.09	0.08	0.08	0.08	0.07	0.11	0.08	0.09	0.07
南鮮	0.12	0.12	0.11	0.10	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.12	0.11	0.12	0.12	0.11	0.14	0.11	0.14	0.12
北朝鮮	0.24	0.23	0.20	0.19	0.18	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.18	0.16	0.17	0.16	0.12	0.14	0.15	0.16	0.15	0.13	0.12
南朝鮮	0.11	0.11	0.10	0.09	0.10	0.10	0.10	0.09	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.11	0.09	0.13	0.10	0.12	0.10
●1人当りイモ類																					
北鮮	0.17	0.16	0.16	0.12	0.11	0.11	0.12	0.12	0.10	0.16	0.14	0.10	0.19	0.13	0.08	0.14	0.19	0.19	0.14	0.13	0.12
西鮮	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04
中鮮	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03
南鮮	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03
●1人当り豆類																					
北鮮	0.06	0.06	0.06	0.06	0.04	0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.04	0.05	0.05	0.04	0.05	0.05	0.04	0.04	0.03	0.04
西鮮	0.08	0.07	0.06	0.06	0.05	0.06</															

表8 食糧生産、1940/41-44年

A. データ I

(千トン)

	米				粟、大・小麦、蕎麦、大・小豆、トウモロコシ				小計			
	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮
1941	113	702	1,181	1,737	165	730	585	1,105	278	1,432	1,766	2,842
1942	102	603	822	826	153	601	540	872	256	1,204	1,362	1,698
1943	152	566	771	1,319	236	700	479	749	388	1,266	1,250	2,068
1944	185	650	736	880	261	748	686	1,128	445	1,398	1,422	2,007
	ジャガイモ、サツマイモ				計 (1)				計 (2)			
	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮
1941	295	208	285	258	573	1,640	2,051	3,100	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
1942	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
1943	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
1944	495	263	288	252	940	1,661	1,710	2,259	1,016	1,742	1,741	2,280

(注と出所) 計 (1) = 小計 + イモ ; 計 (2) = 計 (1) + その他豆 + ライ麦 + 稗 + 黍 + モロコシ + 燕麦。1941年のイモのデータは、朝鮮総督府(1943)、それ以外は、朝鮮銀行調査部(1948)、GHQ-SCAP (August 1946, no. 11, pp. 34-37)による。

B. データ II

(千トン)

	米				麦類				雑穀			
	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮
1940	159	691	797	1,582	42	400	348	916	196	550	182	136
1941	113	702	1,181	1,737	29	164	340	895	120	512	192	131
1942	102	603	822	826	19	147	315	737	113	417	162	75
1943	152	566	771	1,319	41	148	277	589	157	486	148	111
1944	185	650	736	880	41	198	433	898	204	500	172	128
	計											
	北鮮	西鮮	中鮮	南鮮								
1940	397	1,641	1,327	2,634								
1941	262	1,378	1,713	2,763								
1942	234	1,167	1,299	1,638								
1943	350	1,200	1,196	2,019								
1944	430	1,348	1,341	1,906								

(注) 引用元の資料には、麦類の生産量が石とトンの両方の単位で記されている。そこでの石からトンへの換算率は約0.167である。上表の麦類の生産量はその数値である。

(出所) 近藤 (1963: 32-34)。

これはよく知られた資料であるが、誤植がおおい。1944年のみ、GHQ-SCAPの資料に関連数値があるので、これによって修正が可能である。データIIは友邦協会が1960年代に編纂した総督府の予算資料による。そこにはイモ類の生産量データが欠落している。IとIIを対照すると、米生産量の数値はまったく同一である。これらのデータから、1941年以降、南朝鮮の食糧生産が大きく減少した反面、北朝鮮では必ずしも減少しなかったこと

を知る。とくに北朝鮮では米をふくめ、生産量がむしろ増加した。1944年の1人当り食糧生産は北朝鮮が最大であった(表9)。これを1940年(前表7)と比較すると、北朝鮮では増大したが西鮮では減少した。その結果、北朝鮮全体ではやや減少した。これにたいし、南朝鮮では減少幅が大きかった。

表9 食糧生産、1944年

A. 合計						(千トン)
	米	麦・雑穀	イモ類	豆類	合計	人口(千人)
北鮮	185	264	497	77	1,022	3,138
西鮮	650	625	266	212	1,753	5,721
中鮮	736	621	287	99	1,742	7,600
南鮮	880	1,092	255	57	444	9,441
北朝鮮	835	889	763	289	2,755	8,859
南朝鮮	1,615	1,713	541	155	4,025	17,041

B. 1人当り						(トン)
	米	麦・雑穀	イモ類	豆類	合計	
北鮮	0.06	0.08	0.16	0.02	0.33	
西鮮	0.11	0.11	0.05	0.04	0.31	
中鮮	0.10	0.08	0.04	0.01	0.23	
南鮮	0.09	0.12	0.03	0.01	0.24	
北朝鮮	0.09	0.10	0.09	0.03	0.31	
南朝鮮	0.09	0.10	0.03	0.01	0.24	

(出所) 朝鮮銀行調査部(1948)、GHQ-SCAP (August 1946, no. 11, pp. 34-37)。

2. 戦後

北朝鮮政府が発表した1944-57年の農業生産統計を表10に記す。同統計はその後の政府統計にくらべ詳細である。のみならず、質的にもかなり信頼できるとして、広く引用されてきた。しかしそれは、厳密な考証を経たものではない。同表の疑問点のひとつは、朝鮮戦争中、穀物の総作付面積が増大したことである(1951年1,904千町歩、1953年2,103千町歩)。戦争で労働力、資材の不足が極限に達した状況下、これが実際に起ったとみることにはできない⁽³⁾。戦後、1954-57年には、トウモロコシの作付、生産が大きく増えた。当時、政府は粟や麦をトウモロコシに転換する政策を推進していた。トウモロコシ作の増大はこの政策を反映したもので、事実と考える。一方、同期間の米作の急成長とくにその反収増大が事実であったかは疑わしい。この時期、農業集団化が急速に進展した。その下で生産性上昇が起ったと考えることはできない。

日本統治期、とくに戦時中のデータと照合すると何がいえるか。38度線以北はほぼ、北鮮および西鮮の全体と江原道の北部(全体の約1/3)を合わせた地域である。ここでは、江原道の部分を

省き、近似的に北鮮と西鮮の合計とみなす。1941-44年の同地域の農業データを表11にしめす。これによると、1944年の各作物の作付面積は、前表10の数値とほぼ一致する。反面、生産量は相違する。とくに米と粟の数値は表10のほうがはるかに大きい。日本統治期の米生産データは玄米ベースであるが、戦後のデータのベースは不明である。もし後者が粳ベースであったとすれば、玄米ベースに換算する必要がある。換算率を0.8とし、表10の1944年の数値、1,008(千トン)に乗ざると806となり、表11の数値、834に近くなる。しかし粟にかんしては、表10の1944年の数値は表11のその1.54倍にも上る。これは測定ベースの違いでは説明できない。

表10と表11のデータ比較で目立つ他の点は、米の反収が1946年以降、1941-44年の水準を大きく上回ることである。他の作物ではその差は小さく、変化に不連続性はみえない。米についてはさらに、部分的ではあるが、道別の比較が可能である(表12、13)。表12の黄海南・北道は表13の黄海道に相当する。同じく表12の平安南道・平壤市、平安北道・慈江道はそれぞれ、平安南道、平安北道に相当する。戦前の咸鏡南道は戦後南北に分割され、その南部が38度線以北の江原道と

表 10 北朝鮮の穀物・ジャガイモ生産統計：1944-57年

	年	穀物 計	内、						イモ類 計	内、 ジャガイモ
			米	トウモロコシ	大麦・小麦	粟	キビ	大豆		
A. 作付面積 (千町歩)	1944	1,966	400	173	306	434	68	332	139	121
	1946	1,670	388	174	185	396	61	245	113	100
	1947	2,013	420	239	235	385	74	352	110	96
	1948	2,127	444	275	282	366	68	337	112	99
	1949	2,112	382	282	309	369	65	322	120	104
	1951	1,904	380	249	232	346	76	355	83	77
	1952	2,062	406	247	291	357	85	353	85	80
	1953	2,103	432	241	283	401	87	340	86	78
	1954	2,111	452	236	274	365	84	352	86	74
	1955	2,099	455	335	319	310	83	308	92	80
	1956	2,165	493	608	290	171	54	340	122	104
1957	2,255	500	759	248	82	37	391	159	136	
B. 生産量 (千トン)	1944	2,417	1,008	116	250	533	96	208	775	661
	1946	1,898	1,052	156	84	257	61	143	492	424
	1947	2,069	1,101	193	131	235	69	188	544	444
	1948	2,668	1,350	333	153	329	91	195	697	553
	1949	2,654	1,158	375	212	394	103	191	782	616
	1951	2,260	935	357	152	321	118	245	582	520
	1952	2,450	1,085	346	191	375	123	166	581	526
	1953	2,327	1,229	224	162	268	87	268	412	344
	1954	2,230	1,025	307	196	273	87	196	647	500
	1955	2,340	1,242	361	197	222	95	128	619	512
	1956	2,873	1,392	760	183	117	71	230	948	761
1957	3,201	1,459	1,130	164	58	58	206	1,186	965	
C. 反収 (トン)	1944	0.12	0.25	0.07	0.08	0.12	0.14	0.06	0.56	0.55
	1946	0.11	0.27	0.09	0.05	0.06	0.10	0.06	0.44	0.42
	1947	0.10	0.26	0.08	0.06	0.06	0.09	0.05	0.49	0.46
	1948	0.13	0.30	0.12	0.05	0.09	0.13	0.06	0.62	0.56
	1949	0.13	0.30	0.13	0.07	0.11	0.16	0.06	0.65	0.59
	1951	0.12	0.25	0.14	0.07	0.09	0.16	0.07	0.70	0.68
	1952	0.12	0.27	0.14	0.07	0.10	0.14	0.05	0.68	0.66
	1953	0.11	0.28	0.09	0.06	0.07	0.10	0.06	0.48	0.44
	1954	0.11	0.23	0.13	0.07	0.07	0.10	0.06	0.75	0.67
	1955	0.11	0.27	0.11	0.06	0.07	0.12	0.04	0.67	0.64
	1956	0.13	0.28	0.12	0.06	0.07	0.13	0.07	0.78	0.73
1957	0.14	0.29	0.15	0.07	0.07	0.16	0.05	0.75	0.71	

(出所) U. S. Department of Commerce (1960: 58-59, 68-69, 72-73)。

ともに新たな江原道を構成した。このため戦前後の比較ができないので、ここには記していない。これらの表で、1944年と1949年の作付面積は、1949年の黄海南・北道の数値が異常に小さい以外、それほど不連続ではない。他方、生産量は、黄海南・北道を除き、1949年の数値が1944年の数値を大幅に上回る。これはすなわち、49年の

反収の値が高かったからである。1953-56年は、咸鏡北道を除く各道で作付、生産ともに急増した。反収も高水準であった。けっきょく、地方別の米生産量にかんする戦後の数値は、戦前の水準から大きく乖離している。

長期的観点からとくに注目すべきは、戦後の統計で1人あたり生産量が戦前にくらべてどのよう

表 11 生産統計：北鮮・西鮮計、1941-44 年

年	米	トウモロコシ	大麦・小麦	粟	大豆	ジャガイモ
A. 作付面積 (千町歩)						
1941	414	131	266	442	352	86
1942	365	133	292	460	299	n.a.
1943	375	161	263	402	319	n.a.
1944	399	170	307	445	324	n.a.
B. 生産量 (千トン)						
1941	815	101	169	328	189	393
1942	705	103	141	304	117	n.a.
1943	718	131	169	391	157	n.a.
1944	834	127	214	346	211	613
C. 反収 (トン)						
1941	0.20	0.08	0.06	0.07	0.05	0.46
1942	0.19	0.08	0.05	0.07	0.04	n.a.
1943	0.19	0.08	0.06	0.10	0.05	n.a.
1944	0.21	0.07	0.07	0.08	0.07	n.a.

(出所) 朝鮮銀行調査部 (1948: 42-49)。

表 12 米生産統計：咸鏡北道、黄海道、平安道、1949-57 年

年	咸鏡北道	黄海南道・北道	平安南道・平壤市	平安北道・慈江道
A. 作付面積 (千町歩)				
1949	27	61	70	95
1953	27	138	78	94
1956	29	158	99	98
1957	27	161	103	98
B. 生産量 (千トン)				
1949	80	213	203	307
1953	52	445	221	283
1956	44	435	261	303
1957	53	448	348	314
C. 反収 (トン)				
1949	0.30	0.35	0.29	0.32
1953	0.19	0.32	0.28	0.30
1956	0.15	0.28	0.26	0.31
1957	0.20	0.28	0.34	0.32

(出所) U. S. Department of Commerce (1960: 71)。

な値を示すかという点である。表 14 で、1 人あたり食糧（穀物・イモ類）生産は 1946 年の 0.26 トンから 1957 年には 0.45 トンに、同じく 1 人あたり米生産は 0.11 トンから 0.15 トンにそれぞれ急増した。戦前、これらが最高値を記録したのは 1937 年で、それぞれ 0.44、0.14 トンであった（前表 7 参照）。すなわち北朝鮮政府の統計によれば、

表 13 米生産統計：咸鏡北道、黄海道、平安南道、平安北道、1941-44 年

年	咸鏡北道	黄海道	平安南道	平安北道
A. 作付面積 (千町歩)				
1941	19	149	83	95
1942	17	140	69	86
1943	17	131	75	89
1944	18	143	79	94
B. 生産量 (千トン)				
1941	5	328	155	219
1942	25	302	110	191
1943	27	215	142	209
1944	41	257	156	237
C. 反収 (トン)				
1941	0.03	0.22	0.19	0.23
1942	0.15	0.22	0.16	0.22
1943	0.16	0.16	0.19	0.24
1944	0.23	0.18	0.20	0.25

(出所) 朝鮮銀行調査部 (1948: 42-43)。

表 14 北朝鮮の推計人口と食糧生産、1946-57 年

年	人口 (千人)	食糧生産 (千トン)	同、1人当り (トン)	1人当り米生産 (トン)
1946	9,257	2,390	0.26	0.11
1949	9,622	3,436	0.36	0.12
1953	8,491	2,739	0.32	0.14
1954	8,771	2,877	0.33	0.12
1955	9,063	2,959	0.33	0.14
1956	9,359	3,821	0.41	0.15
1957	9,691	4,387	0.45	0.15

(注) 食糧は穀物（大豆を含む）とイモ類の合計。人口は韓国の研究機関による推定。

(出所) U. S. Department of Commerce (1960: 68-69)、国土統一院調査研究室 (1986: 93)。

戦後 10 数年を経て戦前の最高水準に復帰した。しかしこれをそのまま事実として認めることはできない。上述のように、戦後の統計の測定ベースの相違、低い信頼度を考慮すれば、むしろ 50 年代後半の 1 人当り食糧生産および米生産は、戦前の最高記録に及ばなかったとみるべきである。

3. まとめ

朝鮮半島ではもともと南が米作の中心地であったから、日本統治期、米生産量の増大の多くは南朝鮮で生じた。しかし増加率は北朝鮮のほうが高

く、それは地域人口の伸びをはるかに凌駕した。これをもたらしたのは、作付面積の増大と生産性（反収）の上昇であった。北朝鮮の米の主産地、西鮮では30年代後半、雑穀にかわって米がもっとも重要な食糧作物となった。北鮮でも米作は発展したが、当初の規模が小さかったため、最重要作物とはならなかった。北鮮では、雑穀にかわってジャガイモが第1の食糧作物となった。

全食糧作物の1人あたり生産量は、1920年代から北朝鮮のほう一とくに北鮮一が南朝鮮より多かった。これは北朝鮮の1人あたり雑穀やイモ類の生産量が南朝鮮のそれを上回ったためである。食糧生産力を1人あたり食糧総生産量で測るならば、北朝鮮の同生産力は南朝鮮より大きかったのである。その水準—0.3-0.4トン—は、調製・貯蔵過程での減耗、加工用、飼料用をみこんでも、住民の生存維持に十分であった。じっさいの消費量はもちろん、別途考察を要する問題である——日本統治期に北朝鮮住民が南朝鮮住民より1人あたり多くの食糧を消費していたかどうかは、外国・内国交易量を地域別に推計してはじめて知りうる。これは非常に困難な作業である⁽⁴⁾。一点指摘すれば中鮮で、地域の食糧生産力を上回る消費がおこなわれたことは確実である。そこでは京城という商工業都市の成長、都市化—非農化が起り、食糧の純輸入があったと想定しうるからである（中鮮の食糧生産力が相対的に小さかった事実はこれを反映する）。

戦時期から帝国崩壊、さらに朝鮮戦争という衝撃がつづく中で、南朝鮮（韓国）では食糧生産力が大きく低下した。すなわち、1人あたり米生産量、同食糧（穀物・イモ類）生産量はそれぞれ、1946年、0.09トン、0.15トン、1949年、0.11トン、0.18トン、1955年、0.10トン、0.19トン、1958年、0.10トン、0.18トンにすぎなかった（朝鮮銀行1948: III-11、農協中央会調査部1965: 53、871）。その後も韓国の食糧とくに米の生産は総量では増加したが、1人あたりでは1920-30年代の水準に戻らなかった。韓国は米、小麦を輸入する一方、野菜、畜産物、魚といった副食物のおおはばな生産増によって国内消費をまかなった。この状態は70年代後半まで続いた。1人あたり米生産量は

1981年でも0.14トンにとどまった。これは生産能力の低下ではなく、生活水準が向上し食料消費の多様化、米の需要減が生じた結果である⁽⁵⁾。以後、米の生産ははだいに過剰となった。北朝鮮では1946年から50年代中、農業生産条件が韓国にくらべて有利であったと信じる根拠は存在しない。同時期の北朝鮮農業の成長実績は、韓国と同等あるいはそれ以下であったと考える。のち、北朝鮮の食糧事情は韓国のそれと正反対の方向に変化した。このことはいまや論証の要がない⁽⁶⁾。戦後北朝鮮で、日本統治期の食糧生産力が維持されれば深刻な飢餓は生じなかったはずである。もしくは非農業が発展し、潤沢に食糧輸入ができれば同様の結果をえられたはずである。北朝鮮がこのどちらにも失敗したことは明白である。

〈参考文献〉

- 韓国銀行 各年、『経済統計年報』ソウル、同行。
木村光彦 1999.『北朝鮮の経済』創文社。
—— 2011.「100年前の北朝鮮経済」『青山国際政経論集』第86号、39-61ページ。
金日成 1981.「党の組織的・思想的強化はわれわれの勝利の基礎—朝鮮労働党中央委員会第五回総会でおこなった報告（1952年12月15日）」同『金日成著作集』第7巻、平壤、外国文出版社。
経済企画院 各年、『韓国統計年鑑』ソウル、同院。
国土統一院調査研究室 1986.『北韓経済統計集』ソウル、同室。
近藤釵一編 1965.『太平洋戦下の朝鮮（4）』友邦協会。
朝鮮銀行調査部 1948.『朝鮮経済年報 1948年版』ソウル、同部。
朝鮮総督府 1922-43.『朝鮮総督府統計年報』大正9年—昭和16年、京城、同府。
朝鮮総督府 1942.『昭和15年 農業統計表』京城、同府。
農協中央会調査部 1965.『韓国農政20年史』ソウル、農業協同組合中央会。
農政調査委員会編 1977.『改訂 日本農業基礎統計』東京、農林統計協会。
GHQ-SCAP 1946. *Summation of U. S. Military Government Activities in Korea* (『美軍政活動報告書』Vol. 2, No. 5-12)、ソウル、原主文化社。
Mitsuhiko Kimura 1997. “The Origins of North Korea’s Economic Crisis,” *Asian Historical Statistics Project, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University*, no. 6, pp. 11-13.

U. S. Department of Commerce 1960. *Development of the National Economy and Culture of the People's Democratic Republic of Korea (1946-1959)*, Washington D. C., U. S. Joint Publications Research Service.

- (1) 北・西・中・朝鮮という用語は現在、一般に使われない。朝鮮の朝を略したところから一種の差別語とされたためである。しかしこれは偏見（特定のイデオロギーを信奉する人々が、ある政治的意図をもって展開した主張）にすぎない。くわしくは、木村(2011)（同論文は同じ地域比較の観点から、100年前の北朝鮮経済について論じた）参照。
- (2) 計画が実施されたかどうかは不明である。『朝鮮農会報』第16巻第8号、1942年、73ページ。
- (3) 金日成（1981: 367）は1952年12月の演説でつぎのように述べた：「農業省はいまだに作付面積を戦前の

水準に回復していない。現在7万ヘクタールの農地が耕されていない……ところが農業省の一部の幹部は、戦時の困難な条件にかこつけて作付面積を縮小しようとする正しくない考えをもっている。」

- (4) 木村（1999: 203）は1938年にかぎってこの作業を行なった。
- (5) 経済企画院（各年）、韓国銀行（各年）の関連データによる。戦後日本の1人あたり米生産量は1960年代なかばに、戦前のピーク（1930年代なかば、およそ0.15トン）にほぼ達した（農政調査委員会編 1977: 338-339）。
- (6) くわしくはKimura（1997）参照。

* 本稿脱稿後、戦時期朝鮮のより詳しい食糧生産データを入手した。その整理・検討は別稿でおこなう（『青山国際政経論集』に発表予定）。